

東京駅「青空市場」で福島の特産品を販売

～福島の高校生と取り組む復興支援『福島ふるさと市場プログラム』～

>>>2014.8.11

株式会社アルビオン(本社:東京都中央区、代表取締役社長:小林章一)は、福島県の高校生と復興支援に関する取り組み『福島ふるさと市場プログラム』を実施。8月8日(金)に東京丸の内の「青空市場」で特産品の販売会を行いました。

同プログラムに参加している12名の高校生とアルビオンの社員20名で東京丸の内 行幸地下ギャラリー「青空市場」に出店、高校生たち自身が選んだ福島県のお菓子や調味料、旬のフルーツ、被災地域の焼き物や織物など、地元高校生ならではの約30品種を販売。この日までに3回にわたって商品選びのコツや、接客、宣伝ツールづくりを学んだ高校生たちは自作のPOPなどで売り場づくりを行い、接客・販売を行いました。



参加した高校生は、「最初は声をかけても足を止めてくれず大変だったけど、自分たちの選んだものだから自信をもっておすすめした。買ってもらった時は本当に嬉しかった。」と感想を述べ、他の高校生たちも積極的に試食をおすすめしながら大きな声でお客様に声をかけていました。

夕方には小林社長も応援に駆けつけ、高校生とお揃いのユニホームを着て呼び込みを行い、大いに売り場を盛り上げました。また、同日午前中にアルビオン社内でも販売会を行い、多くの社員が買い物を楽しみました。アルビオン社内・丸の内とも販売予定時刻を待たず、完売という好評のうちにプログラムは終了しました。

アルビオンでは今後も継続して、状況に応じた被災地支援を行なってまいります。



店舗前で呼び込みを行う小林社長



社員対象の社内販売も同時に開催

■「福島ふるさと市場プログラム」とは

福島県在住の高校生12名とアルビオン社員が自分の目で福島の特産品を選び、東京丸の内の「青空市場」に出店して販売する活動です。さらにアルビオン社員が講師となって、マーケティングや接客、金銭管理、宣伝ツールの制作など3回にわたって福島県で講座を開催。高校生の皆さんには販売活動の一連を体験いただきながら、改めて自分たちのふるさとである福島の魅力を再確認し、各地から多くの人が集まる東京駅で東北サポーターを一層増やすことを目的としたプログラムです。

■企画目的

震災から3年が経過し、今なお様々な状況と向き合いながらも力強く歩み始めている福島県の方々がいます。

福島県在住の高校生が、地元の特産品を通じて福島の魅力を外部の多くの方に伝え広めることで、改めて自分のふるさとを誇りに思っていただけける機会となり、「復興のリーダーとして自分達にできることは何か」を考えるきっかけとなることを目的としています。

■福島ふるさと市場プログラム全体カリキュラム [共催：(社) Bridge for Fukushima]

- ・7/19(土) 第1回講座：マーケティング（お客様が望む商品とは？）
接客（あいさつ、言葉づかい）
- ・7/26(土) 第2回講座：商材プレゼン（リサーチした商材の発表）
- ・8/ 1(土) 第3回講座：経理（金銭管理について）
宣伝（チラシやPOP制作、陳列について）
- ・8/7（木）アルビオン熊谷工場見学／陳列確認・販売練習
- ・8/8（金）青空市場出店／アルビオン社内販売会
- ・8/9（土）修了式



販売までの各講座の様子

■資料

【一般社団法人Bridge for Fukushima】

東日本大震災からの復興を目指し、福島市・相馬市・南相馬市を中心に活動する一般社団法人。海外での緊急支援・途上国開発援助、外資系マーケティング、教員など様々なバックグラウンドを持つ仲間が集まり、社会起業家のハンズオン支援などを行っています。

※震災直後の白神山水10万本支援活動時には、福島県相馬市内での配布活動を協働下さいました。